

求めてやまぬ 法の道のり

山主

福田大園

善光寺は、佛天の御加護と檀信徒の皆々様の御尽瘁により、日毎に内容を充実し、面目を新たにして参りました。就中、釈迦殿の落慶は、「横浜に善光寺あり」と、世人をして瞠目させるものであります。

加えて昨年、開創十五周年記念事業として、釈迦殿本尊釈迦牟尼佛の脇侍、文殊・普賢両菩薩の勸請、並びに大般若經六百卷の新添を發願いたしました。さいわいにして皆様方の御協賛を賜わり、淨財の御喜捨をお寄せいただき、無上の法幸に感激しております。

脇佛の制作にはなお歳月を要しますが、大般若經は近々完成の見込みですので、五月二十八日の不動明王大祭に因み、解繙かひげん（紐とき）法要をとり行ない、以て檀信徒各家の繁栄を祈禱する所存であります。

さらに、前号で申し上げましたように、善光寺は今後、皆様方のお力の結集を報恩行にふり向けるべく新しい軌道に歩みを進めて参り

ます。昨年十二月一日、歳末助け合い托鉢募金を致し、いささかなりとも地域社会に布施を行ずることができましたし、また、「善光寺海外留学僧派遣育英会」を設立すべく、去る一月十五日、設立準備委員会を開催し、来春には海外に留学僧を派遣することとなりました。

今後の宗教界の発展は一にかかって人材の育成にあり、この企てを通して、世界の平和と人類の進運に寄与したいと願うものであります。

高祖様は『修証義』に「この一日の身命は尊ぶべき身命なり、貴ぶべき形骸なり、この行持あらん身心自らも愛すべし、自らも敬うべし、我等が行持によりて諸佛の行持見成し、諸佛の大道通達するなり、然れば則ち一日の行持これ諸佛の種子なり、諸佛の行持なり」と示しておられます。

「光陰は矢よりも迅か」であり「身命は露よりも脆し」であります。何卒、今後共、佛法の興隆と寺檀の繁栄に一段の御尽力をお願い申し上げます。